特集にあたって

大東文化大学看護学ジャーナル・編集委員長
北田　志郎

新型コロナウイルスによる災禍は，多くの方の生命や生活の質を脅かし，社会構造の大幅な変化をもたらしただけでなく，大学での学びのあり方も大きく変えることとなった．そのような中，本誌は「新型コロナウイルスと感染制御」と「看護学科の学び‐薬害被害当事者に学ぶ講演会より‐」の２つの特集を組むこととした．

「特集Ⅰ．新型コロナウイルスと感染制御」では，感染制御学をご専門とし，本邦の COVID-19 対策に大きな役割を担っていらっしゃる本学スポーツ・健康科学部健康科学科の中島一敏教授にお話を伺うと共に，当学科杉森裕樹教授には病原体の本態が不明な時代に公衆衛生的手法を用いて感染制御を行ったジョン・スノウの事績を中心にご執筆いただいた．

当学科第１期生が領域実習に臨むにあたり【看護学科グリーンセレモニー】と題した式典を開催し，そこで薬害被害の当事者の方々にご講演いただく予定であった．式典そのものはコロナ禍により中止を余儀なくされたが，ご講演は遠隔授業の形で実現し，学生に強い感銘を与えることとなった．講演日と演者は以下の通りである．

2020 年 8 月 4 日：古城英俊氏（全国 B 型肝炎訴訟弁護団埼玉支部・弁護士）
鈴木和彦氏（全国 B 型肝炎訴訟東京原告団・当事者）

2020 年 8 月 13 日：間宮清氏（サリドマイド薬害被害当事者）

演者のお三方からは，ご講演を元に書きおろしをお願いした．紙幅の都合上ご投稿を一部割愛させていただいたことはご容赦願いたい．また，当日受講した学生の中から４名の寄稿を加えて「特集Ⅱ」とした．

今なお社会は困難のさなかにあるが，医療・看護の営みと学びは革新を続けている．その息吹を感じ取っていただけたら幸いである．